



PREX NOW

No. 138

October
2004

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

page 1	● ニュース&レポート 1 ロシア日本センター関連事業の受託
page 2~3	● 研修員の声 日本の企業経営にも、関西の文化にも感激!
page 3	● ニュース&レポート 2 PREX研修カリキュラムに 関西の魅力をアピールできる 「関西プログラム」の組み込みを開始
page 4	● 企業訪問 企業における人材育成、 (株)ボーナードを訪問
page 5	● PREX役員、常任幹事のひとこと 太いパイプ作り PREX評議員 省部 昌吾
page 6	● PREXだより 事務局ニュース 10月実施の主な研修 コラム



ニュース & レポート ①

News & Report

ロシア日本センター関連事業の受託

[機械製造・観光OJT研修]

PREXでは、中期アクションプランのプロジェクト(問題解決計画)の一つとして、ここ数年「国の関連機関の制度を活用した企画・提案型事業への取り組み」を積極的に行っている。この度、その活動の一環として、外務省ロシア支援室管轄のロシア日本センター関連事業の企画提案・入札に参加し、訪日研修2件を受託することとなった。

■ ロシアの日本センターにおける事業

日本政府は、市場経済への移行のための改革を進めているロシアに対して、1994年度以降、人材育成面での支援を行うべくロシア国内7ヶ所(モスクワ：2センター、サンクトペテルブルグ、ニージュニーノヴゴロド、ハバロフスク、サハリン、ウラジオストク：各1センター)に「日本センター」を設置・運営している。同センターでは、企業経営者、ビジネス関係者を対象として、日本の経験やノウハウの移転のため、日本から派遣された専門家による講座や、その受講者から選抜された成績優秀者を対象とした訪日研修も実施している。(分野は「中小企業経営」「マーケティング」「企業競争力強化」「電子商取引」など)

■ OJT研修を実施

現在、これら事業の委託実施機関は情報公示→実施希望者によるプロポーザル提出→選考というプロセスで決定されている。PREXではこの事業への参画を目指し、過去2回プロポーザルを提出してきたが、いずれも受託するには至らなかった。

このたび、今年度下半期実施の5案件のうち、「機械製造OJT」「観光OJT」という2件の研修の委託を受けることとなった。

概要は下記の表の通りである。

なお、この2つの研修は、従来のロシアへの専門家派遣と成績優秀者対象の訪日研修という組み合わせの事業とは異なり、外務省が今回初めて試みるもので、経営者等が座学や企業視察のみでなく、OJTによる実務的中身の研修を受けることで、それぞれの分野における企業経営者としての知識やノウハウをより深く理解し習得することを目指して実施されるものである。

—国際交流部 課長 森光 恵美子

OJT研修の概要

▼研修名	▼概要
「機械製造OJT」	- 実施時期：2004年11月1日～19日 - 対象：機械製造業に携わる経営者や製造部門の責任者 20名 (モスクワ、サンクトペテルブルグ、ニージュニーノヴゴロドからの訪日) - OJT研修実施先：松下電器産業、ダイキン工業 (上記2社において、生産管理、顧客満足、生産管理、品質管理などのテーマでの体験型研修を実施)
「観光OJT」	- 実施時期：2004年11月28日～12月17日 - 対象：観光産業に携わる経営者等 20名 (ハバロフスク、ウラジオストク、ユジノサハリンスクからの訪日) - OJT研修実施先：在日の各国政府観光局、ホテル、旅行会社、鉄道会社、ユニバーサルスタジオジャパンなど (プロモーション、マーケティング、顧客満足、企画、販売促進、イベントへの取り組みなどのテーマでの体験型研修を実施)



日本の企業経営にも、関西の文化にも感激！

[ウズベキスタン日本センター ビジネスコース成績優秀者研修]

7月16日から3週間、ウズベキスタンの企業経営者を日本に招いて経営研修を実施した。PREXはウズベキスタン国日本人材開発センター（以下日本センター）と協力し、2002年度以降、現地で実施されたビジネスコースを優秀な成績で修了した経営者を日本に受け入れている。今回の研修員は全員20代から30代前半で、パワフルで日本への関心溢れる3名。講義、ディスカッションおよび多数の企業訪問を通じて、日本の企業経営の状況を見聞し、現地コースで学んだ経営ノウハウをより実践的なものにし、自社の経営に活かすことが目的である。3名とも、帰国後早速、研修で学んだことを自社の経営に活かすべく奮闘しているとのこと。以下彼らからのメッセージを紹介する。



（株）新田製作所で生産設備について説明を受ける研修参加者たち。



グザールさん

.....
金属加工会社
取締役社長

■ ためになった講義・企業訪問

私の研修での目的は、日本の企業経営の経験を学ぶこと、そして人事管理の実践的スキルを取り込むことでした。

人事労務管理の講義では、日本の企業

が、20世紀の各段階での課題をどのように解決してきたのか、経緯をおって考えることができました。またオープンなディスカッションを通じて、日本型ビジネスモデルの強みだけではなく、弱い部分についても学ぶことができました。

同時に企業訪問では、講義を通して学んだことが、実際どのように機能しているのか、また、どのように進化し、ビジネスの中で実践されているのかを見ることができました。

研修で得た知識は疑いなくウズベキスタンでも適用できるものでした。帰国後、会社で「私の目で見えた日本—日本のビジネス経験のウズベキスタンでの適用」というテーマでプレゼンを行った結果、聴講者は皆非常に関心を持ち、よく理解してくれました。これからが、会社で新しいアイデアを実現するチャンスだと思っています！



タマーラさん

.....
皮革会社
会計チーフスペシャリスト

■ 日本そして関西の魅力

関西は日本海、瀬戸内海そして太平洋に囲まれた変化とバラエティに富んだ所だ。関西への訪問はちょうど夏。最も暑くて湿度の高い季節で、衣類は汗でびしょぬれになった。しかし寺、神社、博物館、劇場それから公園で一杯の大阪、京都を歩けば、日本に近づいてきた台風や湿気に

よる不快も忘れてしまった。

PREXから、寺・神社で有名な京都についての情報を得たので、まず京都へ。JR京都駅が、古きと新しさが混在する町—京都見物の出発点だった。デパート、レストラン、ショッピングアーケード、劇場そしてホテルが現代的な駅の周りにある。一方で東本願寺、西本願寺、東寺のような古い寺院も点在していて、京都の人々にとっての都会のオアシスとなっている。高さ57メートルの東寺の五重の塔は、現存している塔の中で最も高く、京都のシンボルである。講堂にある21の仏像は仏教の教えを体現しているようだ。歩いていると、京都国立美術館の近くに出てきた。そこはロダンの「考える人」で有名で、彼に導かれて美術館に入ると、中には古代の国々をめぐってきた伝統的芸術作品と現代美術が沢山展示されていた。

える見物客がやってくる。このお祭りは壮大な山鉦で有名で、その上では日本の笛や鈴、太鼓で祇園囃子が奏でられる。山鉦は古代のカーペットで飾られており、そのうちのいくつかは私たちの国からのものだった。それから色々な浴衣を着た日本人々が純粋に祭を楽しんでいる様子を見ることができた。小路を潜り抜けて、沢山の小さなカフェ、店、家があり、それらの建築様式は、私の祖国のものとは非常に異なっていた。

日本の夏は、お祭りが沢山あり、それぞれ歴史上のできごとを祭ったものだ。

■ 天保山の花火とホスピタリティ

また、PREXの皆さんが、天保山花火大会観賞パーティーに招いてくれ、喜んで参加した。しかし実はこの日に、「大人のためのディズニーランド」ユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行くことを決めていた。素晴らしいアトラクションを楽しんだ後は、もう自分の脚の感覚すらなくなっていたのに、花火大会を見たいという気持ちがとても強かった。浴衣姿の群集の間を何とか抜

■ 京都で祇園祭を楽しむ

京都で祇園祭が開かれている間に日本を訪れることができたのは幸運だった。毎年夏になると、祇園祭には100万人を超



天保山海上花火大会をPREXの事務所から鑑賞した際、大津先生や留学生の皆さんと懇親を深めるウズベキスタンの研修参加者たち。

けていった。花火は、完全に私たちの想像通りだった！その技術、色づかいのスケール、夜の海上に打ちあがるすごい音、その背景にある天保山観覧車、湾を横切る橋。加えて、PREXの皆さんが企画したパーティーも、素晴らしい前奏だった。

日本滞在中、大阪のサントリーミュージアムで開かれていたパリ美術展に行く機会があった。ここでは19世紀から20世紀の美しい女性達と彼女達の日常生活品を見ることができた。見た絵画はどれも専門的で完成されており、そのため、そういったパリの女性が実在したんだという印象を受けた。

■ 東京はユニークな都市

私たちの勉強は街の中でも続いていた。それは「夢でいっぱい」の街東京だ。本当のことを言えば、こんな数行では表現

できないのだが、その現代的な美しさ、規模、そして面白くてユニークな場所の多さ—世界のどこの都市でもこんな場所は見つけられないだろう！東京国立美術館、歴史博物館、上野動物園、お台場—この巨大な展示場や無限に続く店、レストラン、「小さなイタリア(パレットタウン)」、東京湾からのフジテレビの眺め。それから「お客様は神様」という実感が持てる秋葉原—経験したことのないものを見ることができる場所。

日本...私たちの心の中に忘れがたい瞬間を残し、また私たちの心の一部を盗んでいった。私の書いたことは、何人かの読者には大げさに聞こえるかもしれない。きっと私たちは日本の本当の生活を見ていないんだと言うだろう！けれども誰も、この国が、賞賛され愛されるのに相応しくないと、私に信じさせることはできない。

ウズベキスタン日本センター ビジネスコース成績優秀者研修

実施日時 7/16～8/5
研修参加者 ウズベキスタン日本センター
ビジネスコース成績優秀者
(企業経営者)3名
委託元機関 独立行政法人 国際協力機構(JICA)
大阪国際センター
内 容 企業経営

お世話になった方々、企業・団体他(訪問順・敬称略)

大貝元龍谷大学教授(PREX専門家) 松下電器産業 歴史館、新田製作所、兵庫経営塾 上田副理事長(PREXシニア専門家) 富士紙工業、京セラ、香老舗 松栄堂、三和電機製作所、新潟経営大学 ツェリッシェフ教授、青田経営研究所 青田氏(PREXシニア専門家) 東洋ゴム工業、ナダヤ、東大阪金属加工グループHIT、大阪工作所、関西生産性本部 安田経営コンサルタント、近畿大阪銀行、大阪市都市型産業振興センターソフト産業プラザイメディオ、M・V・P、ベネフィックスコンサルティング、ピクスメディアファクトリー



ニュース&レポート②

News & Report

PREX研修カリキュラムに関西の魅力をアピールできる 「関西プログラム」の組み込みを開始

PREXは、昨年7月策定したPREX中期アクションプランに沿って、「研修事業を通じて、関西に対する理解を促進するためのカリキュラム(関西プログラム)の編成」を7月実施の研修で試行した。研修員からの評価も高く、ウズベキスタンのタマールさんからもメッセージが届いている(左ページ)。今後各受入研修に順次組み込んでいく予定である。

[ウズベキスタン日本センタービジネスコース成績優秀者研修での試行]

関西プログラムの組み込み

当該研修の実施時期・期間、参加国、研修員の年齢などを考慮し、お勧め見学・訪問先を紹介

本受入研修での見学・訪問先リスト

7月16日(金)	天保山(海遊館、サンタマリア号、サントリーミュージアム)
7月17日(土)	京都祇園祭、二条城
7月19日(月・祝)	天保山海上花火大会
7月30日(金)	大阪難波(でんでんタウン、なんばパークス、道頓堀)
7月31日(土)・8月1日(日)	奈良(東大寺、法隆寺)/神戸(市街地、ベイエリア)/千里万博公園(日本庭園)
8月3日(火)	大阪南港ベイエリア(ATC、WTC)



大阪の松下電器産業 歴史館で企業経営の原点に触れるウズベキスタンの研修参加者(右端)。



京都二条城で日本の古都を満喫するマレーシアの研修参加者。



京都で友禅染を体験する上海の研修参加者ら。



企業における人材育成、(株)ホーナンドーを訪問

[マレーシア経営幹部セミナー]

PREXが「マレーシア経営幹部セミナー」を実施するのは、今回で8回目である。今年度より、年2回実施することになっており、次回は来年2月に予定されている。テーマは、人材育成とIT活用であり、日本の行政機関や企業における、人材育成方針や育成方法、ITの導入事例などを紹介した。その中で、企業における人材育成の事例として、(株)ホーナンドーにお伺いし、北田代表取締役社長にご講演をお願いした。同社は、企業パンフレットやポスター、ホームページなどの企画・製作などを行っている会社である。ご講演いただいた北田代表取締役社長に感想をお寄せいただいた。



北田代表取締役社長からのご講演風景。
同社の人材育成に対する研修員の関心は高く、質問で時間が足りなくなったほど。

北田 浩之氏

(株)ホーナンドー 代表取締役社長

14期5月末の決算を増収増益で終えることができ、ほっと一息ついている6月の半ばだったと思う。

日頃お世話になっているオフィスウエダの上田社長から、マレーシアの行政機関に勤務する中間管理職が日本の人材育成についての事例を学ぶ研修で来日する。ついては私に中小企業としての取り組みを講演してくれないか、との依頼があった。私も先ずは彼女の方が専門でしょう? と思いながらも、快くというか気軽に承諾してしまい、受けてから「えらいこっちゃ!」と悩むことになった次第である。と言うのも、マレーシアには、ビジネスはもちろんプライベート旅行でも行った事がなかった。社員に「あのマライオンのあるとこね?」と聞くと「社長! それはシンガポールです...」と呆れられる程度の知識しか持ち合わ

せていなかったからだ。

しかし、世界は一つ、人類は皆兄弟。というわけで、変に海外であることを意識せず、現状の中小企業を取り巻く環境と弊社の経営方針、そして採用から人材育成に対する考え方を1時間半にわたって、お話をさせていただいた。

たとえば、中小企業において自社を成長に導くためには、人材の育成にお金をかけるより、採用にお金をかけることが重要である。採用するターゲットは公務員や大企業を希望する安定志向ではなく、将来は起業を目指しているような独立志向の人で、彼らが入社したくなるような魅力付けをどのようにするか。

また、(株)ホーナンドーを中心に関連5社で運営されているCCGグループでの分社経営の特徴、各社の経営責任者と権限委譲。個人の自由や個性の多様化が進むなかで、スタッフの雇用形態もそれに準ずることのできる柔軟な仕組みが大切で

ある、などなど。講演が終わってからの質問では、日本企業の大半が終身雇用であると思っていたが、(先に訪問の大手企業では終身雇用の堅持を強調されていたようだった)中小企業では違うのか? マレーシアでは残業はほとんどない、そんなに働いて社員は辞めないのか? (残業がないのは、行政機関だから?) 将来は上場を目指しているのか? 他、多くの質問が飛び出し、研修員の真剣さと日本企業への関心の高さが実感できるセミナーだった。

実際、研修員の皆さんにどれだけお役に立てたのかはわからないが、彼らのフレンドリーさと気さくな笑顔、そして弊社訪問の記念としてプレゼントした団扇を喜ばれる姿に救われた思いである。

また、今後にかのご縁で研修員の方々と再会できることを楽しみにしたいと思っている。



同社の印刷工場を見学。



同社玄関前での集合写真。
前列右から5人目が北田代表取締役社長。

マレーシア経営幹部セミナー

実施日時 7/20 ~ 8/6
研修参加者 マレーシアの行政機関に勤務する
中間管理者 15名
委託元機関 独立行政法人 国際協力機構(JICA)
大阪国際センター
内 容 行政機関・企業の人材育成、
IT化の現状など

お世話になった方々、企業・団体他(訪問順・敬称略)

滋賀大学 小田野純丸リスク研究センター長、大阪国際大学 谷川寛講師、京都BB、滋賀県政策研修センター、松下電器産業、ホーナンドー、三洋電機、人事院、総務省、NTTデータ、特許庁、マレーシア大使館、アサヒビール、関西情報・産業活性化センター、大阪府、eおおさかiDC、関西経済連合会 関西IT推進本部、中川木材産業、京都国際文化交流財団、神戸市



太いパイプ作り

PREX評議員 雀部 昌吾

バンドー化学株式会社 代表取締役会長

この6月の初めに関西経済連合会の中国使節団に加わり、最近の中国経済の一端に触れることができた。この国へのいろいろな見方があるが、私には、経済政策に対する自信と外国との関係強化を図ろうとする余裕が強く印象付けられた。また同時に、この中国とのパイプを一層太く強固にすることが大切だとの思いを深めた。

中国政府は自国の発展を目指し急速に経済政策を展開している。そして、世界各国はこぞって中国にアプローチをかけ、東南アジアはFTAによる関係強化を進めようとしている。こうした状況は、関西の活性化にとって好機と思えるが、アジア・中国に対し関西の魅力を訴え、関心を喚起する策に今ひとつ力強さが伴っていないように感じている。

そうした折、私を気落ちさせる記事が6月22日の日本経済新聞に掲載された。日本と中国のビジネスマンへのアンケート調査の結果である。「今後、自国はどの国・地域と関係を強化すべきか」の設問に答え、日本側は第1位が中国で、43%の人がこの国をあげているのに対し、当の中国側の第1位は米国、次いでロシア、ASEANと続き、日本と答えたのは僅か4%にとどまっている。日本が中国に関心を示すほどには中国は日本に関心を示していないのである。

日本はアジアに位置し、欧米とは異なる文化圏の中にある。また、関西にはアジア・中国との交流の古い長い歴史がある。関西が世界の中で特色をもって発展するには、このアジア・中国との関係

強化、つまり、パイプを太くすることが重要な課題となろう。パイプは本質的には人的交流のことである。ビジネスを通じての往来もさることながら、心の中で共鳴する人と人との文化的な交流を増すことがもっと大切であると考える。

文化的交流といえば、米国のフルブライト・プログラムが思い浮かぶ。世界で最も広く知られた権威ある奨学生制度であり、日本からも毎年多数の奨学生がハーバード大など米国各地の大学に留学し教育を受けたのである。これまでにこの制度によって米国で学んだ日本人は6千名を超える数だと聞く。フルブライトと称するこうした日本人留学生達は我国の産業、学術、行政などいろんな分野で活躍し、同時に日米の太いパイプとなっている。このプログラムの真意を曲解しているかもしれないが、日本をはじめ世界各国の学生の米国志向の大きな要因のひとつであると思えてならない。

PREXでは産業振興面においてアジア・太平洋地域を中心に、国際的人的ネットワークの構築と強化に取り組み、成果を上げている。このこと自身は関西の産業人として誇らしいことであるが、さらに欲を言うなら、私は産業人と同様に将来のオピニオンリーダーとなる若い世代の人達にもっと日本を知ってほしいと思う。アジア・中国の学生の間で日本志向がもっと膨らんでほしいと願う。そうしたことがかなう留学生受け入れの仕組みがこの関西の地で充実し、関西とアジア・中国との太いパイプが育つことを望んでいる。

事務局 ニュース

大阪経済記者クラブとの懇談会を開催

9月3日12:00～13:30、piaNPO 3階 会議室において、PREX井上会長(ダイキン工業(株)顧問)と大阪経済記者クラブ記者との懇談会を開催。9社9名の記者が参加した。懇談会では、PREXの中期アクションプランの進捗状況など報告した。

中央アジア・コーカサス地域 産業最新情報についてセミナーを開催

PREXでは、JICA(国際協力機構)主催の受入研修員をパネリストとし、一般公開セミナーを開催。10月開催のセミナーは、中央アジア・コーカサス地域が対象で、民芸品・特産品の紹介などもある。詳細はホームページに掲載。http://www.prex-hrd.or.jp

日時 10月22日(金)14:00～17:00

会場 piaNPO 6F会議室

参加費 無料

問合先 国際交流部 谷川、森光

10月実施の主な研修

■「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」を実施

期間 10/4～10/22

参加者 象牙海岸、マリ、ベナン、トーゴの中小企業政策担当者他 7名

■「中央アジア市場経済化理解のためのマーケティングセミナー」を実施

期間 10/4～10/29

参加者 中央アジアコーカサス地域の企業振興に携わる行政官 11名

■「出入国管理行政コース」を実施

期間 10/4～11/2

参加者 アジア・大洋州地域14カ国の出入国管理行政官18名

■「ベトナム海外研修(企業の財務管理)」を実施

期間 10/11～12(ホーチミン市)、10/14～15(ダナン市)

参加者 民間企業、国営企業の経営者 各都市40名

■「インドネシア輸出促進のためのマーケティングセミナー」を実施

期間 10/18～11/11

参加者 中小企業幹部 15名、行政官 5名

C O L U M N

ティーパーティーの実施

PREXでは従来、研修員の来日後、歓迎の意を表し交流を図ることを目的として「ウェルカムパーティー」を実施してきたが、JICAからの委託研修においては、委託元機関の意向もあり、ティーパーティー形式に簡素化。今年度より、オリエンテーションの一環として、研修員に来日しての感想や疑問など率直な意見を伺い、意見交換する機会として活用することとした。本紙掲載の、ウズベキスタンとマレーシアの研修でのティーパーティーの様相を紹介する。

■マレーシア メニューは本格的な食事ではなく、お菓子とジュース程度、メンバーは、マレーシアの経営幹部ら15名にPREX職員5名、コースリーダーの滋賀大学小田野リスク研究センター長の計21名で、着席形式にて行なった。内容は、日本の印象から始まり、日本経済や教育問題など多岐に渡った。電車やバスが時刻表どおりに発着することに驚いたといった話や、外で遊んでいる子供たちを見ないがどうしているのかといった様々な質問があり、小田野先生やPREXから答えていった。今後も、このティーパーティーをコースリーダーやPREX職員との親交を深める場とし、これから始まる研修の中で感じる疑問や要望を、臆せず伝えてもらえるような関係を構築するための一助とできればと思う。

—国際交流部 コースプランナー 高山 真由子

■ウズベキスタン 来日から間もないウズベキスタンの企業経営者3名。午前中一杯オリエンテーションをした後であわただしく昼食をとり、引き続いてのティーパーティーは、少し緊張した雰囲気であった。テーブルにはフルーツ盛り合わせ、研修員と大貝先生、PREXスタッフが円状に向かい合う。「せっかくの機会なので、日本での生活で不安に思っていることなど気軽に聞いてください」と振ってみても、目の前のフルーツも食べなければと、なかなか質問が出てこない。ここはやはり観光の話!「日本で見たいのは?来日前から楽しみにしていたものは?」と聞いてみたところ、「東京でやっているらしい恐竜展が見たい!」(31歳・男性)や、「古代植物園!それから文楽!」(22歳・女性)や、「美術館がたくさんあるらしいですね!ハシゴしたい」やら出てくる出てくる。よく調べたなと関心。その後美術館の割引券をプレゼント。3週間の研修中は休日を最大限に活用し、恐竜展は無理だったが、皆さん休む暇もなく食欲に日本の名所を回っていました。 —国際交流部 コースプランナー 若菜 愛



今年度から実施の「ティーパーティ」では、研修員から来日の感想や疑問など率直な意見を伺い、意見交換することができた。

PREXの 研修実績

2004年
9月1日現在

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通しての国際的人材交流促進に努めています。

●研修累計(1990～)

238コース

●受講者累計(1990～)

101カ国・地域 7,388名

【受入(訪日)研修 2,429名 / 海外研修 4,959名】

●PREXの講師・専門家群

173名 (現在、拡充中)

●PREXのシニア専門家

45名 (現在、募集中)

編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事 三田 昌孝

〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24
pia NPO 5階 502号室

TEL 06-4395-2650
FAX 06-4395-2640

ホームページ: http://www.prex-hrd.or.jp
電子メールアドレス: prex@prex-hrd.or.jp